



◆生育状況 果樹総合情報を参照

◆当面する重点作業・技術

1. 春の強風等で枝が反転した園地は、早急に誘引配枝のやり直しを行う。
2. 気象情報に注意を払い、凍霜害対策に万全を期する。防霜ファンの電源を確認する。
3. 凍害及びクラウンゴールの被害を受けている可能性があるため、粗皮はぎ時に主幹に裂傷などがないか確認する。また発芽以降自園の状況をよく観察し、発芽がしない・遅れている場合はかん水を行う。
4. 芽欠き作業を行い、新梢の勢力伸長を揃える。

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期 … 展葉数で2～3枚目が10円玉の大きさになった頃 散布日 月 日
2. 調合量 … 水1000ℓ 当り

〔 展 着 剤 … 10ml
キノンドー顆粒水和剤 … 100g (黒とう病)〕

3. 散布量 … 10a 当りSS・動噴=250ℓ 以上
4. 留意事項

- ①黒とう病の発生が心配無い品種は、散布しなくてもよい。
シャインマスカットやクイーンルージュ®・欧州系など黒とう病に弱い品種は重要な防除となるため、タイミングを合わせて必ず散布を行う。
苗木であっても散布を行う (主幹・主枝に被害が出ないように)
- ②生育の状況を観察し適期に散布する。(自根樹は生育が早いので、散布時期に注意する。)
- ③カメムシ類の発生が心配される場合は、④ダイアジノン水和剤34の1,000倍(水1000ℓ当り100g)を加用する。
- ④キノンドー顆粒水和剤に代えてICボルドー66Dの100倍(水1000ℓ当り1kg)でもよい。

◆カイガラムシ防除について

1. 塗布時期 … 5月上旬まで 塗布日 月 日
2. 調合量 … 水40ml 当りアルバリン顆粒水溶剤40g
3. 塗布量 … 1樹当り40g
4. 使用上の留意事項



- ①1樹当り水40mlに薬剤40gをよく溶かし主幹部を縦50cm以上、環状に粗皮削りし、当日～翌日にハケで塗布する。
 - ②塗布後48時間は降雨にあわないよう配慮する。
 - ③使用回数が年1回となっているので、クビアカスカシバの防除(6月上旬に樹幹塗布)とどちらかでの使用となる。
5. 実施方法
当日または前日に粗皮を取り除く(時間が経つと浸透しにくい)

塗りやすい高さで良い。地際は塗りにくい。
粗皮は出来るだけ取り除いた方が薬液が浸透する。
ただし削りすぎて樹液が出てくると薬液が落ちてしまうので注意。
ハケを使用して、溶かした薬液を押しつけるように塗りたい。
塗布してから2日位は天気が良いこと。雨が降ると流れ落ちてしまう。
使用回数は年1回の為、塗り直しは出来ない。乾いてから塗りなおしても効果は少ない。

◆ブドウ管理講習会開催について

(種なし品種の芽かき作業・カイガラムシ防除など)

開催日	曜	集合時間	開催場所	担当
4月24日	月	午前 9:30	東部流通センター (現地へ移動して開催します) また、駐車はセンターの南側に整然とお願いします。	外谷
		午前 9:30	大室 神戸直日様園	松橋
		午前 9:30	綿内 安藤周三様園	松澤
		午前10:00	真島 小林 芳春様園	根津
		午前10:30	綿内 宮沢 栄様園	松澤
		午前11:00	東条 中村忠勝様園	松橋
		午後 1:30	保科 峰村 充典様園	松澤
4月25日	火	午前 9:30	今井 千野しげ子様園	佐藤
		午前 9:30	石川 南澤ひろ江様園	寺澤
		午前10:30	塩崎 宮寄正一様園	寺澤

※新型コロナウイルス対策のため、短時間で行います。またマスクを持参ください。

◆かん水について … 10a 当り 20～30^リ程度

発芽期に水分が不足すると不発芽・発芽遅れなど発芽不揃いを起こし、その後の管理に支障をきたすことになる。乾燥が続く場合は、定期的にかん水を行う。

発芽の悪い樹・園がありましたら果樹技術員にご相談下さい。

発芽が悪い原因を究明して対応する (下記は考えられる要因)

①水不足で生育が遅れている・・・かん水を行う

②ねむり病 (凍害・寒害)

低温による被害だが、徒長・遅伸びして充実の悪い樹や前年までの葉の痛みや着果負荷 (量・期間) による貯蔵養分の減少の影響も大きい。

凍害による傷から根頭がんしゅ病(クラウンゴール)が発生しやすい。治療薬剤は無いので植え替える。

③傷害・・・草刈り機が接触して傷になった・幼木時ひねった・主幹に大きな切り口があるなど、水分の流れを悪くする原因がある。

④虫害・・・スカシバなどによる食害で主枝への被害がある場合は更新枝の育成を行う。

軽い場合は「ロビンフット」の散布で対応 (被害ヶ所は毎年確認する)

⑤モンパ病

根の部分掘り起こして白くカビで覆われているかどうか確認する。

ならたけ病 (きのこ臭がある) と類似しやすい。

植え替える場合はモンパ菌のエサになる根が残らないように取り除く。炭や完熟たい肥の投入も有効。

掘った穴はしばらく空気にあてておく。すぐに植え替えても再発しやすい。

植え替える場合はフロンサイドSC500倍50ℓを灌注しながら植えてもよい。

⑥除草剤・・・切り口や表面に出た根などに散布 (飛散) していないか。

◆種枝の誘引・園内の清掃について

長・中梢仕立てでは芽が膨らんでから誘引を行うと芽が欠けやすいので、終了していない園では早急に仕上げておく。なお、もう一度園内を見回り点検を行う。

◆苗木の植え付け後の管理について

1. 苗木は支柱に誘引し、固定しておく。
2. 活着を良くする為、植え付け後も定期的にかん水を行い乾燥防止に努める。

◆芽かき作業 <発芽や樹勢に応じて行い、新梢の勢力伸長を揃える

・種あり巨峰

第1回目

- ①展葉初期に不定芽と種枝基部の2芽をかき取る。
- ②樹勢の弱い樹は早目から行う。

第2回目

- ①副芽や極端に強い新梢をかき取り、棚の明るさとバランスを保持する。
- ②負け枝を作りやすい部位（主枝分岐部・側枝種枝の基部）は早めに処理する。
- ③5～6枚期以前に強い新梢を除去することにより、基部に近いところまで新梢を揃えることができる。
- ④花振り回避のため、開花前の芽かきは極力弱めとする。（強樹勢）
→ 但し、開花中に棚が暗くなっても困る。
- ⑤樹勢が強く芽数が多く残っている場合、不要な結果母枝を棚下へ下げて棚の明るさを確保する。

・種なしぶどう（短梢剪定）

短梢部分と長梢部分（主枝延長枝）は、芽かきの方針が異なるので注意

(1) 主枝延長枝の芽かき

副芽は早めにかき取る（短梢部分も）

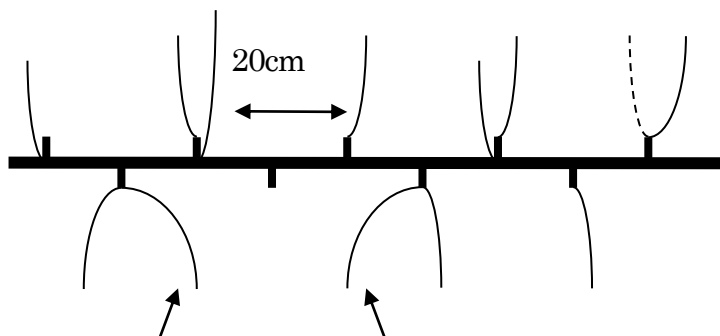
長梢部分から発生した副芽は新梢誘引時にハサミで切る。※手で欠き取らないように！



副芽が大きく伸長している場合は、基部をハサミで切る。
手で欠き取ると、残った本芽にまで傷が及び、誘引時に折れやすくなる。

(2) 短梢部分の誘引と芽かき（芽かきは誘引後に行っても良い）

- ア 2芽剪定をした人は展葉2枚までに先端側の芽をかく。
- イ 30cm程伸び（展葉4～5枚頃）、花穂の素質がわかり次第、必要に応じて芽かきをする。
短梢部分は新梢が伸びやすいので、あせって芽かきをしなくても良い。
- ウ 原則として、芽座の基部側の新梢を残し、1芽座に1新梢とする。



欠損部は、原則として隣や反対側の
新梢を利用して埋める。

図2 欠損部の補充方法

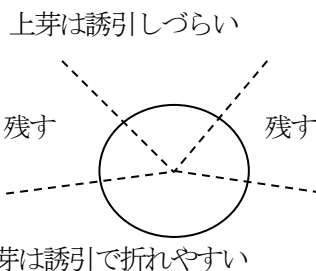


図1 残す芽の位置

最終的に片側20cmに
1本程度新梢が欲しい。
特にナガノパープルは
誘引時に折れやすいので、
芽かき時に目標本数より
多く残しておく。

- エ 基部側の新梢の伸びが悪い時や、判断時期が遅れた時は、やむを得ないので先端側の強い新梢を残す（短梢せん定の維持が困難になりやすいが、生産量を優先させる）。

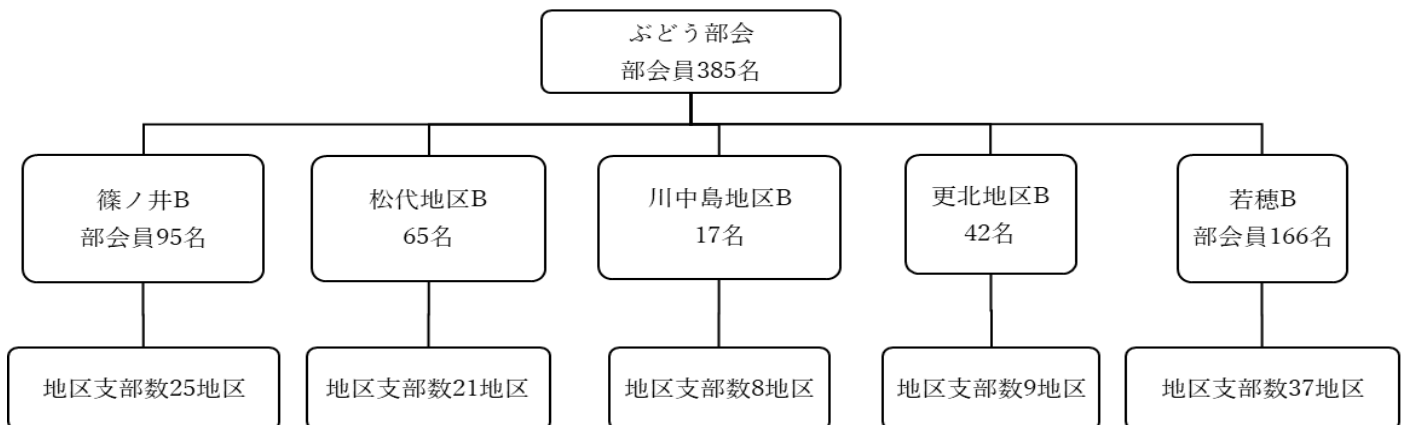
- オ 新梢は、目標本数の2割多く残す。(最終目標本数：片側20cmに1本)
特に、誘引時に折れそうな位置にある新梢の付近には多めに残す。
- カ 欠損部がある場合は、2芽残す。
反対側の新梢の状況も確認しながら誘引準備を行う。

◆部会再編について

令和3年度よりぶどう部会再編について、本部会、各支部役員会にて協議を行い、その経過をご報告いたします。

令和3年度総会において、ロマンクラブが本部会へ吸収合併され、同時に篠ノ井支部・長野南支部・若穂支部体制も出荷場所が2か所体制へ移行したことから、支部体制の見直しを行ってまいりました。

篠ノ井支部・長野南支部の統合や本部会主体によるブロック体制への移行の検討を含め、本部会役員会、支部役員会にて協議を行い、令和4年5月の本部会役員会において、ブロック制へ移行することとなり、各地区役員会にて報告を行ってまいりました。



部会再編にあたり、本部会役員、地区役員、連絡員（情報配布役員）の人数については、今のところ変更はありませんが、部会再編に併せて、各地区支部（公民館単位や地区単位）にて再編を行う場合があります。その際は、現状の支部役員会にておつなぎを致します。

今後は社会情勢も変わってくるため、各ブロック単位での活動ができるよう本部会にて一定の予算を組むよう協議を行っております。詳細については、本部会役員会、地区役員会にて協議をして進めてまいりますのでご理解ご協力をお願いいたします。

《栽培に関する問合せ》 果樹総合情報をご覧ください

《販売に関する問合せ》 各流通センター・共選所／生産販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》 各JAファーム・営農資材センター・経済部・農業資材課：299-3311